



十五夜のお話

むかし(旧暦が使われていたころ)は、7月から9月までが「秋」とされており、真ん中に当たる8月は、「仲秋」とよばれていました。この月の15日(十五夜)の夜に出る満月は、「仲秋の名月」と言われ、収穫を祝ってお祝いをし、月見をする風習がありました。これは、平安時代に中国から伝わり、各地に広まったそうです。

秋の収穫の始まるころとも重なり、お月見には、収穫祭の意味もこめられています。現在では、9月後半から10月初めごろになります。

今年の十五夜は、9月17日です。



あすなる書房
「和の行事絵本」より

子どもに伝えたい素敵な言葉

あなたはあなたの
ままでいい

子どもころは、周りが自分と違うことに不安を覚えてしまうものです。大人になっても「普通にならなきゃ」と考えて、自ら個性を手放す人は多くいます。もちろんいい考え方は、どんどん取り入れることも大切。しかし、自分の考え方を否定しなくてもいいのです。他の人と比べて、自分が違ったとしても不安になる必要はない。それが個性だから…。

毎日を楽しむ 興味あるヒントより

令和6年 9月の園だより



役に立って嬉しいことです

7月下旬から開催されていたパリオリンピックでは、日本選手の活躍に心が躍らされました。最後まであきらめない気持ちをもって挑んだ男子体操。新たな歴史を作ったフェンシング。若い力が躍動したスケートボード。たくさんの心に残る瞬間があったのですが、柔道の阿部詩選手がまさかの2回戦で敗れたときは、一瞬何が起こったのかと思いましたが、一番そう思ったのは本人でしょう。号泣し、立つこともできない詩選手に会場から拍手と詩コール。オリンピックは、競技に勝つことだけではなく、メダルの数を競うあうことだけでもなく、今までの努力をたたえあう素晴らしいスポーツの祭典だと感じたのです。『お互いをたたえあう』『違いを認め合う』この気持ちをすべての人が持ち続けると、戦争はなくなるのと思います。

8月14日15日16日のお盆の期間中は、登園するお子さんがいつもより少なく、赤ちゃんから年長さんまで一緒に過ごす時間がたくさんありました。赤ちゃんや年長さんではあそびの内容が全く違うのですが、年長さんはいろいろ考えて、「絵を描くコーナーには、赤ちゃんが長い鉛筆を持ったら危ないから、短い鉛筆にしよう。」とか、「小さなブロックは食べるといけないから、大きいブロックにしよう」など環境を考えてくれました。でも1歳児さん、2歳児さんも赤ちゃんたちに興味を持ったのです。特に1歳児のS君は、赤ちゃんがミルクを飲んでいるのを見ると、すぐに寄ってきて一緒に哺乳瓶を持ってくれました。「Sくん、ありがとう。赤ちゃんおいしいよってぐんぐん飲んでるね。」と言うと、満足そうに飲み終えるまで哺乳瓶を持ってくれました。また別の赤ちゃんが、ベビーラックでゆらゆらされているのに気づいたSくんは、やっぱりそばに寄ってきて、一緒にラックを揺らしたり、赤ちゃんの頭をなでてくれたりしました。「Sくんがよよししてくれただから、赤ちゃんねんねしたね。ありがとう。」という、嬉しそうにしながら遊び始めました。Sくんだけではなく、1歳児クラスのCちゃんは、いつもと違う環境で戸惑い、ちょっぴり涙が出ています。「おやつを持ってくるからCちゃんお手伝いしてくれる。」と誘うと、頷いたので、コップを二つ持たせてあげると、得意そうな表情に変わりました。「Cちゃんがお手伝いしてくれたからおやつになったね。ありがとう」と言う、おいしそうにおやつを食べて、いつものように

遊び始めました。

毎朝給食のお手伝いをしている年長さんは、誰かの役に立つ喜びを常にかけてくれています。年長さんは、その日の食材、例えば、にんじんの皮むきをしたり、サラダに入るきゅうりを輪切りにしたりして下ごしらえをします。給食をいただく前に、自分たちのお手伝いの内容をお友だちに話す姿はとっても誇らしげです。みんなから「ありがとう」と言われると、ますますいい気持ちになり、お友だちに「おいしい?」と聞いたりしています。「ありがとう」とか、「助かったよ」と言う言葉は、小さな子どもたちだけではなく、誰もが言われて嬉しく、心地よい気持ちになる言葉なのです。

誰かの役に立ち、褒めてもらうという経験は、子どもたちに自信を持たせ、その経験を繰り返すことによって、「自分は大切な家族の一員なんだ」と思い、また、「クラスのひとりとして認められた」と確信し、自分を好きになります。そして、人が生きていくうえで最も大切な自己肯定感が育まれていくのです。小さな子どもたちには、誰かの役に立ったという思いはありませんが、「ありがとう」と言ってもらった喜びは、自己肯定感へとつながる経験です。年長さんから、「おうちでも自分の包丁を買ってもらった。」とか、「お米、研いでるよ。」という声もたくさん聞いています。そして「ありがとうって言ってもらったよ。」と誇らしそうに話してくれます。小さな子どもたちでも靴をそろえる、テーブルを拭くなど、ちょっと大人が手を添えたりすると、できるお手伝いは、たくさんあります。反面、「二度手間になるから。」とか「時間がかかり、邪魔になるから。」などと、大人の側の理由からできることでも、やらせないこともあるようです。ご家庭でも、少し時間にも、気持ちにも余裕のある時に、お子さんのできるお手伝いを経験させてあげ、役に立つ喜びと一緒に味わい、自己肯定感を育てていく機会を作っていたらと思います。

9月に入ると、運動会への取り組みも少しずつ増えてきますが、まだまだ残暑が厳しいところです。暑い中での運動会がより楽しいものとなるよう、子どもたちの興味あることを中心に構成して、子どもたち主体で進めたいと思っています。体調の管理とともに「早寝早起き朝ごはん」へのご協力をよろしくお願いいたします。

園長 上原玲子

9月1日は防災の日

毎月、火事や地震などを想定して避難訓練を行っています。先日、宮崎で起こった地震の際も地震アラームが鳴ったことを伝えると、年長さんは、即座におしゃべりをやめて、机の下に避難していました。

すいこうは、大雨などによる土砂災害危険地域には、指定されていません。また耐震基準もクリアしていますが、それらの災害が起こった場合、道路が寸断されるなどして、保護者の方のお迎えが難しくなる可能性があるため、24時間園児をお預かりできるよう、防災倉庫に飲料水、食糧を始め、自家発電機などの生活用品を揃えています。そのような災害が起こらないよう祈るばかりですが、もし起こったら、どうするか、ご家族で話し合っておくといいですね。



おじいちゃん おばあちゃん
ありがとう



敬老の日は昭和41年から国民の祝日(9月15日)に加えられた祝日です。現在では、9月の第三月曜日に設定されています。

「多年にわたって社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」だけではなく、全ての国民が高齢福祉について、関心と理解を深める日であると言えます。

園では、子どもたちに「おじいちゃん、おばあちゃんがいたから、お父さんお母さんが生まれ、みんながいるんだ」ということを伝えます。

日頃からお年寄りを尊敬し、大切にすることが育って欲しいと願っています。

